

子供料金設定の基本と考え方

子供受け入れ時に押さえるべき「3つの事前チェックポイント」と最適な設定の仕組み



1. 部屋タイプの定員

受入可能人数（名～名）を設定。「布団を使う人数」が定員対象となります。

- 小学生・幼児（布団あり）は定員にカウント
- 添い寝（布団不要）は定員に含まない



2. 子供料金の種類

年齢やサービス内容に応じた料金パターン（4種類）を指定します。

- 大人料金に対する「●%」
- 固定額の「●円」（0円＝無料）
- 「大人と同じ」料金
- 「受入不可」の設定



3. 料金算出人数

子供を「大人料金の算出人数」に含めるか否かを設定します。

- 「含める」：大人単価が変動する場合あり
- 「含めない」：大人人数のみで大人単価決定

定員ルールと「料金算出人数」の仕組み

定員（受け入れ人数）の定義

布団を使用する人数が「定員」対象

客室の受け入れ人数を設定する際、お子様が布団を使用するかどうか
が判断基準となります。

対象区分	条件	定員カウント
小学生（高学年/低学年）	布団を使う（食事有無不問）	含まれる（含）
幼児（食事・布団付）	布団を使う	含まれる（含）
幼児（布団のみ）	布団を使う	含まれる（含）
幼児（添い寝）	布団不要（食事のみ/不要）	含まれない

料金算出人数「含める/含めない」の比較

大人2名 + 小学生1名（80%）の場合

子供を算出人数に含むかどうかで、適用される大人料金ランクが変化
します。

■ 「含める」を設定した場合（計3名適用）

大人料金は「**3名利用時単価**」が適用されるため、大人1人あたりの単価が
下がり、総額が安くなるケースがあります。

■ 「含めない」を設定した場合（計2名適用）

大人料金は「**2名利用時単価**」を維持。大人単価を崩さずに子供料金
（80%）を計算します。

設定時の注意点と運用チェックポイント

検索未ヒット（HIT漏れ）の防止

「大人1名＋子供」の利用時、子供を算出人数に「含めない」設定にしており、かつ「大人1名利用時料金」を登録していない場合、ユーザーの検索結果に表示されなくなります。

定員オーバー設定のエラー回避

「布団を使う子供人数＋大人人数」の合計が部屋タイプの最大定員を超える設定は作成できません。定員上限にご注意ください。

「0円」設定の扱いに注意

大人料金の0円は販売不可ですが、子供料金の0円は「無料」として販売されます。誤設定にご注意ください。

推奨される運用プランと記載

プラン説明文への添い寝条件明記

添い寝（ベッド共有）の人数はシステム上の上限制限ができないため、制限を設ける場合は、「大人1名につき添い寝●名まで」とプラン本文に注記することでの対応となります。

特定日・平日で料金を分ける場合

%設定の子供料金は大人料金に連動して変動します。
固定金額（例: 一律5,000円）で運用したい場合は、平日用・特日用でプランを分けて作成することとなります。